

多世代の居場所づくり

多世代の居場所づくりと防災教育の実践

メンバー

(地域共生) 3年 川原綾花、菊地凜太郎

(地域環境・防災) 3年 占部暖花、沼崎沙耶

指導教員：教授 山本崇記、教授 吉川真理、教授 須藤智、講師 立花由美子

フィールドワーク実施協力者

龍津寺

静岡市立清水小島小学校

52ゆめひろば

静岡市役所文化財課

地域概要

多世代の居場所づくりフィールドは、静岡市清水区の小島地区を拠点として活動をしている。小島地区は、興津川沿いにある山に囲まれた自然豊かな地域である。「土曜子ども寺子屋」を開催するなど子どもたちの居場所づくりに取り組む龍津寺を拠点とし、その他にも小島で活動している様々な地域コミュニティに関わり、子どもから高齢者まで、多世代が交流を深めることができる「居場所づくり」を目指して活動をしている。

これまでの活動

- ・ 龍津寺土曜子ども寺子屋
- ・ ほうもう舎
- ・ SDGsイベント

小島地区の課題

- ・ 少子高齢化
- ・ 住民が集える居場所の不足
- ・ 小中学校の統合

子どもから高齢者まで
多様な人が集える
場づくりを目指す！

2024年度の活動について

①地域を知る・課題発見

・ 龍津寺勝野秀敏住職との懇談会 6月13日(木)

本フィールドの拠点である龍津寺の勝野秀敏住職と、小島地域の現況や社会資源の在り様、地域課題の現状などについて意見交換を行い、**学校の統廃合**や**人口減少**などの中山間地域における課題、**子ども達の遊びの場や交流の機会・場が少ない**といった地域課題があることが分かった。



↑ 懇談会の様子

・ 龍津寺土曜子ども寺子屋への参加&地域散策 5月18日(土)、7月6日(土)、11月16日(土)

寺子屋は、子ども達の伸び伸びと活動できる居場所であり、見守る大人にとっては子どもの元気なパワーをもらえる、場にいる全員にとっての居場所だと実感した。地域散策では、子どもたちに陣屋を案内してもらったり、小島生涯学習交流館への挨拶や、ゆめひろばの見学をした。**小島の交通や町の様子・雰囲気**など、**実際に歩き目で見ることでより地域を知れた。**



↑ 龍津寺土曜子ども寺子屋の様子

・ 清水小島小学校での奉仕活動参加 7月6日(土)

小島小学校PTAの清掃活動に参加した。清掃活動を行いながら保護者の方と交流を行い、「**今の小島には何が必要か**」や子どもたちの「**居場所**」について話すことができた。**子どもたちが自由に活動できる居場所**やイベントなどがあればよいという話になり、**学生が実現**できないか、具体的な検討を行う必要性を再認識した。

・小島小学校150周年記念式典展示見学 11月9日(土)

記念式典の展示で、在校生の取り組みの記録や作品を観覧した。50年前のタイムカプセルの中身や昔の雑誌などの展示もあり、**小島で生活してきた方々の歴史に触れた**。授業を通して**地域住民の方々**、そして**子どもたちの小島への愛着を育んでいる**ということが分かった。

②課題への取り組み ～居場所づくりを目指して～

・秋のゆめひろば祭り 10月20日(日)

小島生涯学習交流館跡地にある芝生広場「ゆめひろば」で、管理を担っている52ゆめひろばさんの共催で開催した。輪投げや読み聞かせ、紙ひこうき大会などを行った。昨年度から**多世代交流の場としての活用を模索**してきた。あまり活用されていない現状と**子ども達の遊び場や交流の場が少ない**という**地域課題**から、皆が楽しめる秋祭りをコンセプトに、多世代が集う新たな居場所づくりを試みた。当日は地域の方々と交流をし、子どもたちの楽しむ姿を見れた。子どもたちが集える場の1つを**実現できた**。

・小島陣屋跡 御殿の書院完成記念イベント参加 12月15日(日)

静岡市役所文化財課の依頼で書院完成記念イベントの広報を行い、当日イベントに参加した。「小島の魅力」に関する動画を3つ作成し、文化財課Instagramにてイベント周知を図った。当日は小島陣屋にゆかりのあるちりめんかえでを模した模造紙に、陣屋や小島に対する「思い」を参加者に書いて頂き、また、「**思い**」を直接お聞きした。地域のシンボルの1つである小島陣屋で、小島や陣屋の未来について考える交流を行い、**地域の方々にも還元できる記録を残せた**。



→ イベントちらし

→ 輪投げの様子



→ 書院完成イベントでのアンケート



③取り組みから見えた課題と展望

課題

「住民が集える居場所の不足」を課題として活動してきたが、**持続の困難さ**が浮き彫りになった。授業内の取り組みだけでは、「居場所」を地域に定着させることが難しい。よって地域コミュニティと密に**連携**して、取り組みを**継続する**必要がある。

今後の展望

今年度からグローバル共創科学部の2年生と共に活動しており、これまで以上に広い視野と発想を活かす活動ができた。今後も**地域との関わりが継続し、私たちが行ってきた取り組みが探究されることを期待する**。

これまでの取組みを振り返って

小島で約2年間活動を行い多くの方々と出会い様々な経験をした。活動を通して生まれた繋がりをここで途切れさせることなく、自分も小島に関わる当事者としてこれからも繋がりをより一層広げていければと思う。



川原



菊地

小島での活動を通して、実際に地域に入ってお話を聞き、目で見ることで課題の発見につながり、座学だけでは分からない経験と学びを得られた。様々な主体にそれぞれの願いや課題があり、全てを叶えることの難しさを知った。



占部



沼崎

小島の方々と様々な場面に関わってきて、地域の方との交流や関係を構築していくことで見えてくる地域課題があることを学んだ。そして、様々な団体や個人の方々に声をかけていただき、幅広い活動を行うことができた。

小島地区の方々と関わる中で、大学生が実際に地域の中に入ってどのような形で地域貢献ができるのか考えると共に、地域の方と深く関わることで見えてくる地域課題が見えてきた。勝野さんを中心とし、様々な方々にご協力をいただきながら小島について考えることができた。